

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果報告【小学校】

1 調査日

令和7年4月17日（木）

2 調査集計対象

小学校第6学年児童 全国 936,576名（うち江戸川区 5,150名）

3 区内実施校数

全小学校 65校

4 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

5 調査内容

（1） 教科に関する調査

- 国語・算数・理科

（2） 生活習慣や学習環境に関する調査

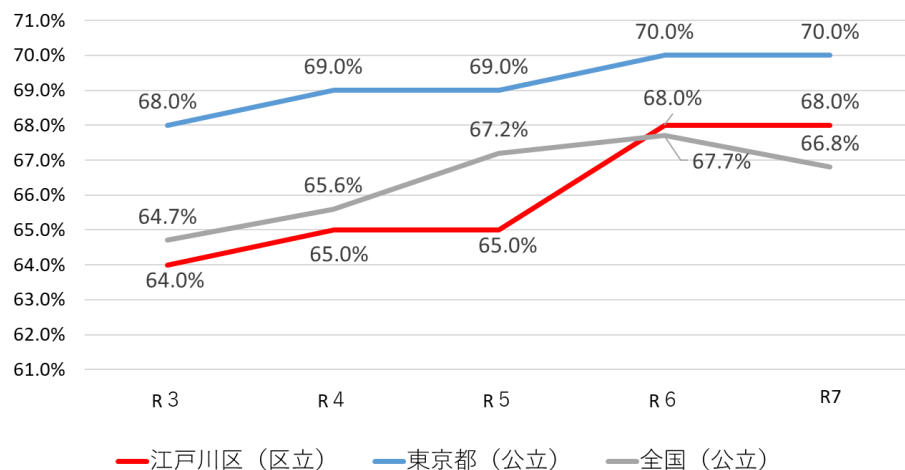
- 児童質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
- 学校質問紙調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査）

江戸川区教育委員会教育指導課

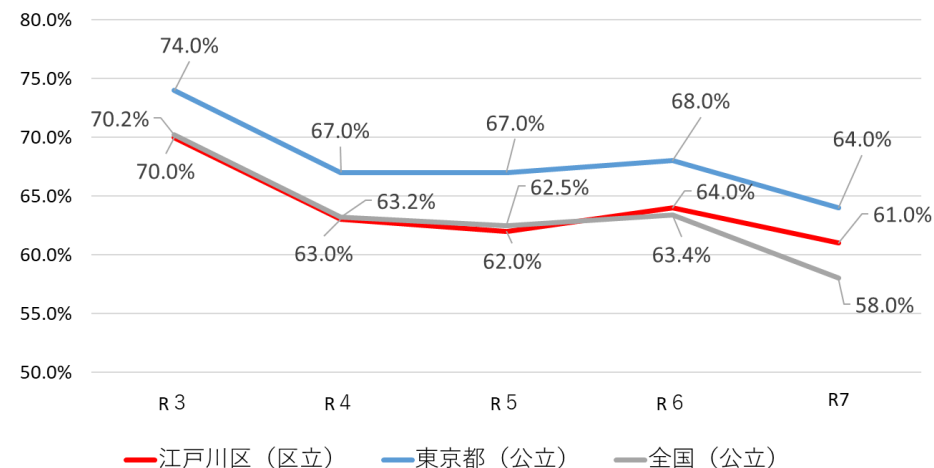
全国学力・学習状況調査 令和3～7年度における平均正答率の推移

【小学校】

【国語】平均正答率の推移

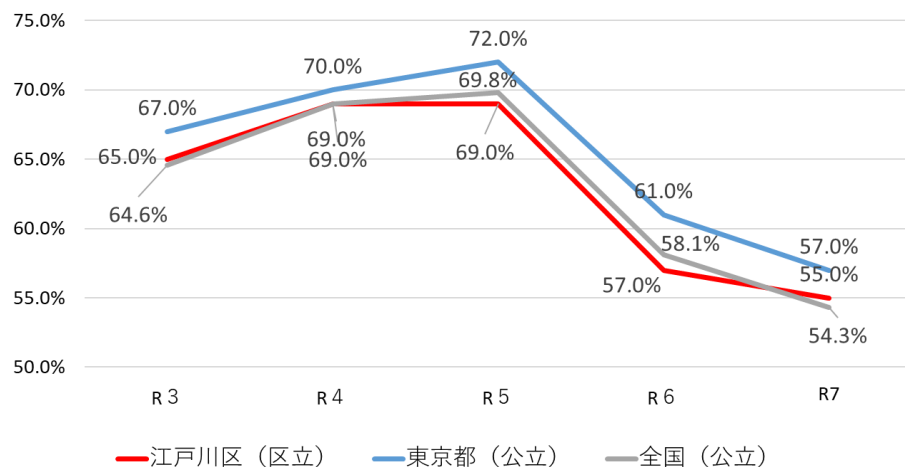


【算数】平均正答率の推移

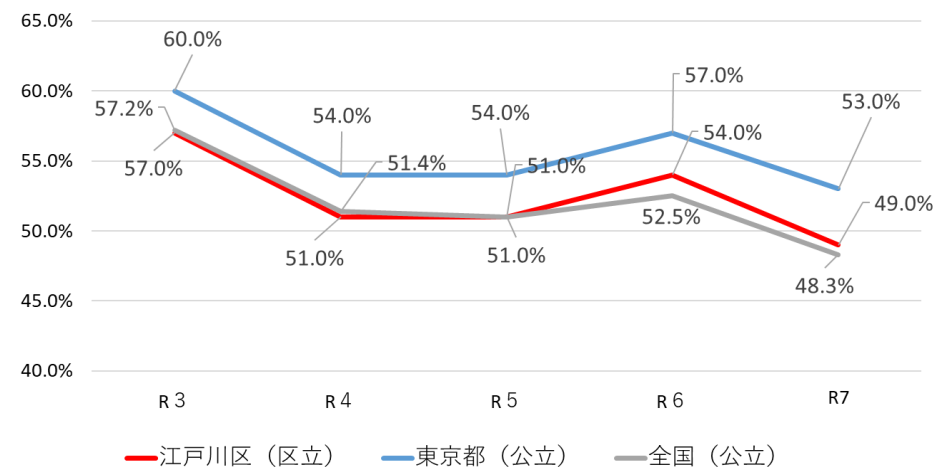


【中学校】

【国語】平均正答率の推移

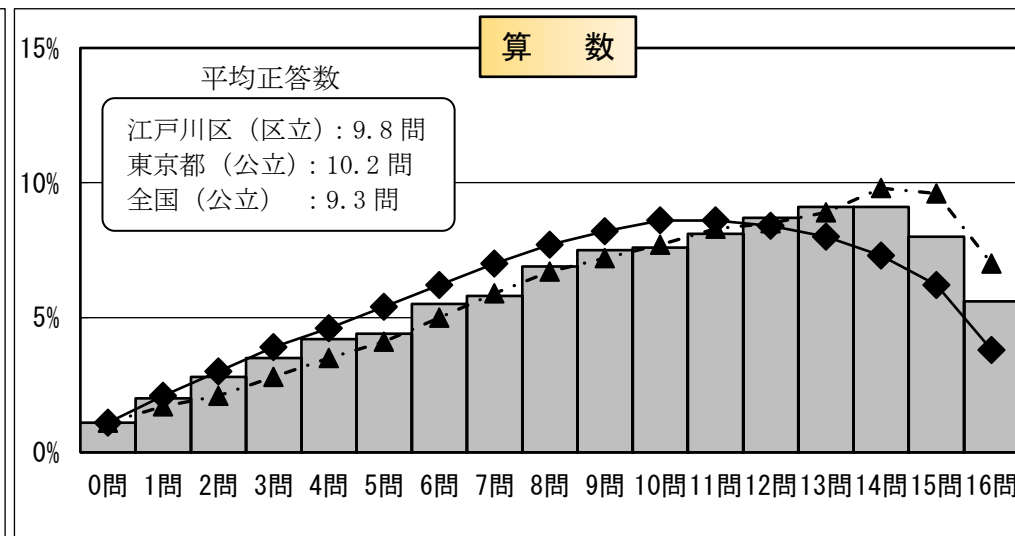
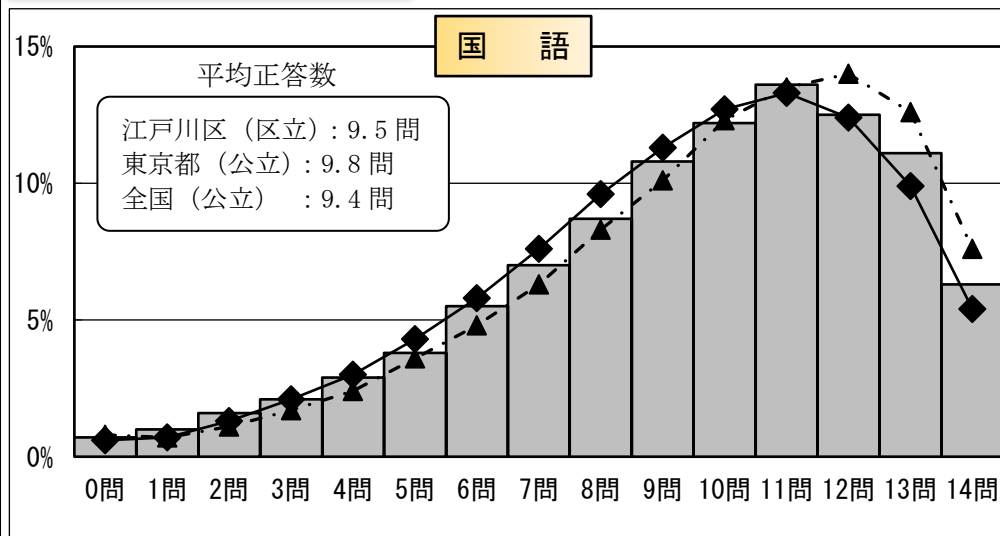


【数学】平均正答率の推移



令和7年度 全国学力・学習状況調査結果報告【小学校】

正 答 数 分 布



<四分位における割合（都全体の四分位による）>

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。

江戸川区（区立） 東京都（公立） 全国（公立）

国 語	上 位 ← → 下 位			
	A層 12～14 問	B層 10～11 問	C層 8～9 問	D層 0～7 問
江戸川区（区立）	30.0	25.8	19.5	24.7
東京都（公立）	34.4	25.8	18.4	21.4
全国（公立）	27.7	26.0	20.9	25.4

(%)

算 数	上 位 ← → 下 位			
	A層 14～16 問	B層 11～13 問	C層 7～10 問	D層 0～6 問
江戸川区（区立）	22.7	25.9	27.9	23.5
東京都（公立）	26.4	25.7	27.6	20.3
全国（公立）	17.3	25.0	31.4	26.3

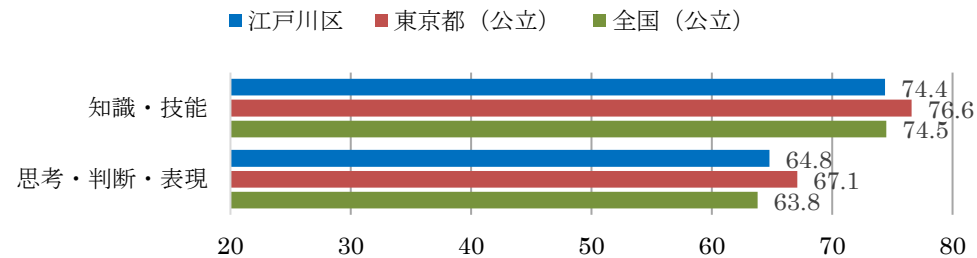
(%)

令和7年度「領域別」の結果と課題【小学校】

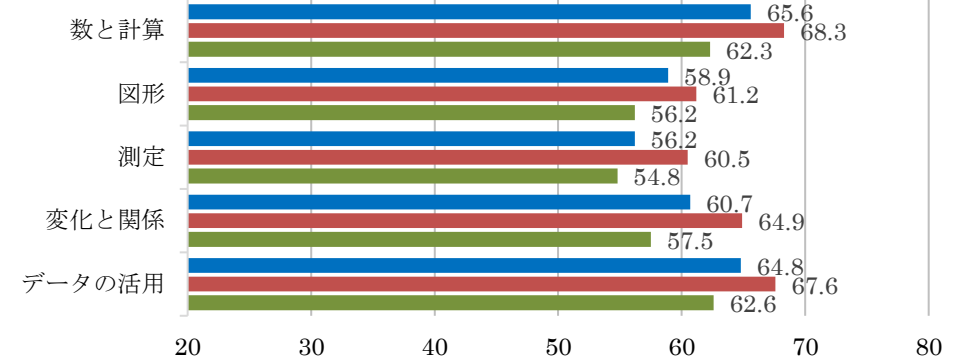
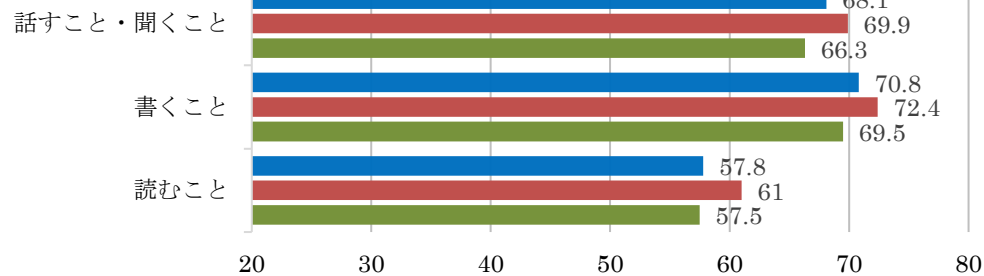
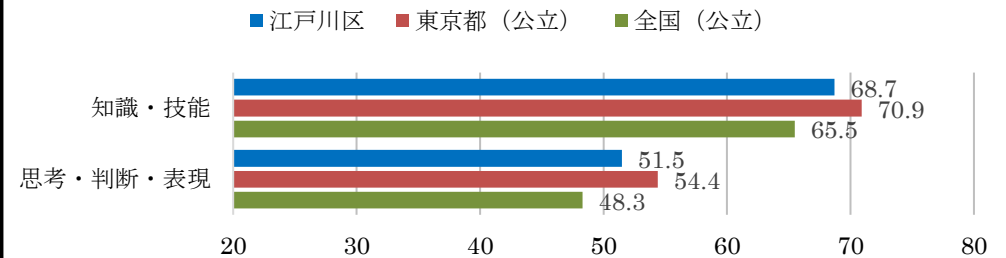
「領域別」の結果

以下、平均正答率（％）を示す。

国 語



算 数



【平均正答率の差】

	国語	算数
江戸川区（区立）	68%	61%
東京都（公立）	70%	64%
全国（公立）	66.8%	58%
都との差	－2ポイント	－3ポイント

【全国平均、東京都平均との関係】

<全国との関係>

- 国語は1.2ポイント、算数は3ポイント、全国平均正答率を上回った。
- 「知識・技能」において、算数の全国平均正答率を3.2ポイント上回った。
- 「思考・判断・表現」においては、国語の全国平均正答率を1.0ポイント上回り、算数の正答率は、3.2ポイント上回った。

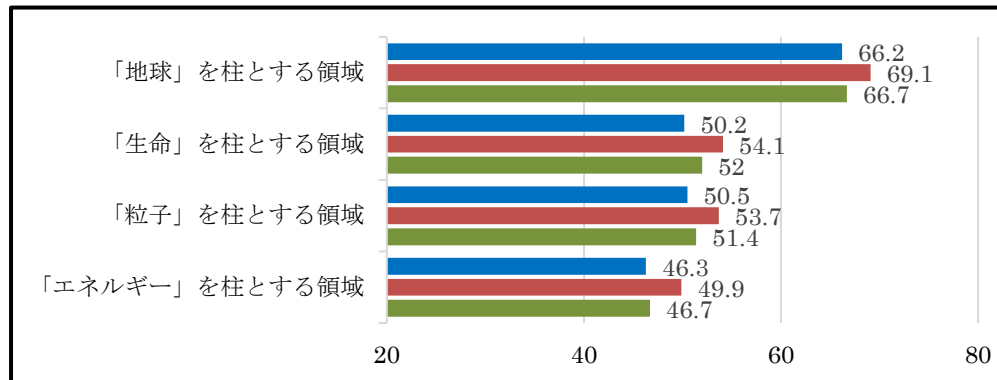
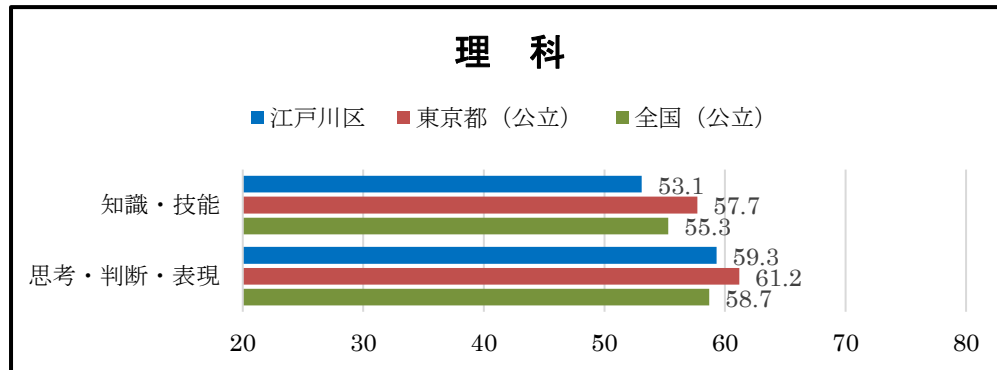
<東京都との関係>

- 国語は「話すこと・聞くこと」で-1.8ポイントに対し「読むこと」について-3.2ポイントと差が大きい。
- 算数は「知識・技能」で-2.2ポイントに対し、「思考力・判断力・表現力」は-2.9と差が大きい。

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果報告【小学校】

「領域別」の結果

以下、平均正答率（％）を示す。



【平均正答率の差】

	理科
江戸川区（区立）	56%
東京都（公立）	60%
全国（公立）	57.1%
都との差	-4ポイント

【全国平均、東京都平均との関係】

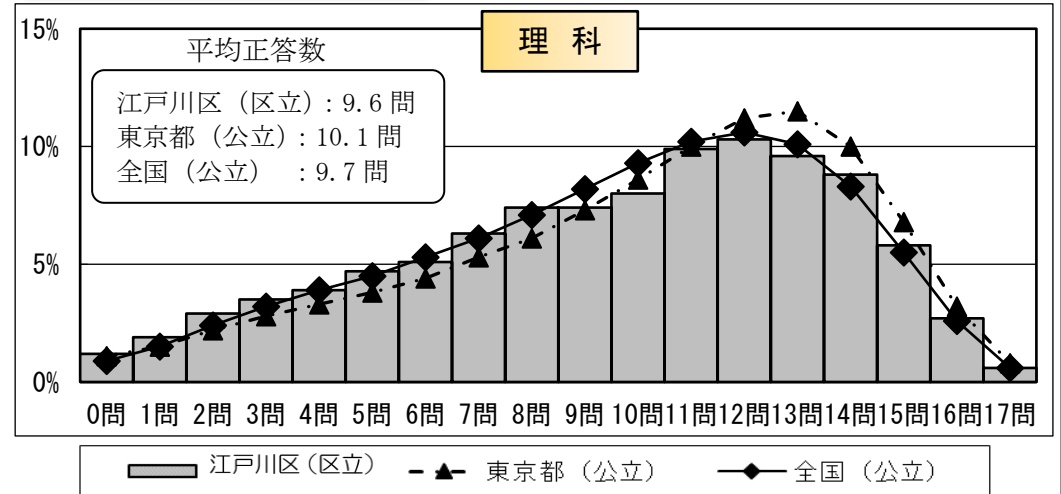
<全国との関係>

○全国平均正答率を1.1ポイント下回ったが、領域別にみると「思考・判断・表現」において、**0.6ポイント上回っている。**

<東京都との関係>

○「思考・判断・表現」で-1.9ポイントに比べ、「知識・技能」において-4.6ポイントと平均正答率の差が大きい。
○領域においては他の領域に比べ、「生命」を柱とする領域において都平均正答率との差が-3.9と大きい。

正 答 数 分 布



理 科	上位 ← 下位			
	A層 13～17 問	B層 11～12 問	C層 8～10 問	D層 0～7 問
江戸川区（区立）	27.5	20.2	22.8	29.5
東京都（公立）	32.4	21.2	22.0	24.4
全国（公立）	27.1	20.8	24.6	27.5

(%)

令和7年度「設問別」の結果と課題【小学校】

国語

平均正答率が東京都と同程度の問題

1

【出題の趣旨】

1 三 (1)

自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる。

【正答率】

江戸川区	75.3%
東京都	75.3%
全国	71.8%

【本区のこれからの取組】

意図に応じて、話の内容を正確に捉えることは、目的や意図に応じて集めた材料を分類したり、関係付けたりするために必要である。

児童の学びを深める学習の流れとポイントを示した「国語授業スタンダード」において、学年に応じ系統的に「聞く・話す」ことを指導するための具体的なポイントを示し授業改善を図っている。

引き続き、児童が他者との対話をとおして読む目的に立ち返り、情報を収集・整理し、自分の考えを表現する資質・能力を高められるよう、教員の授業力向上を推進していく。

4 相手が伝えたいことの内容を明確にするため。

3 自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめるため。

2 質問する理由を相手に正しく伝えるため。

1 自分が知りたいことをより具体的に知るため。

(1) 「インタビューの様子の一部」の小森さんが——部Aのように発言した目的として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

三 小森さんたちは、バスの運転士の岡さんにインタビューをすることにしました。次の「インタビューの様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

平均正答率が東京都より低く、無解答が多い問題

3

【出題の趣旨】

3 三 (2)

目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。

【正答率】

江戸川区	52.5%
東京都	56.5%
全国	56.3%

【無解答率】

21.6%
19.9%
16.2%

【本区のこれからの課題】

必要に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。

読む目的を明確にしながら、複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定していく。語句や情報を囲んだり線でつないだりして、資料の関係を視覚的に明らかにしながら読む指導を充実する。

また、目的に応じて文章の要点を捉え、表現する新聞記事を活用した読解教材を通して、ある程度の長さの文章を意欲的に読み解き、論理的に考える力を付けることができると考える。引き続き読解力の向上を図っていく。

(2) 木村さんは、「資料1」を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを、「資料2」、「資料3」、「資料4」に書かれていることを理由にしまとめることにしました。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

○ 言葉の変化についてなっとくしたことを「資料1」から言葉や文を取り上げて書くこと。

○ なっとくした理由を「資料2」、「資料3」、「資料4」の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、「資料1」を読み返しています。次の「話し合いの様子」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

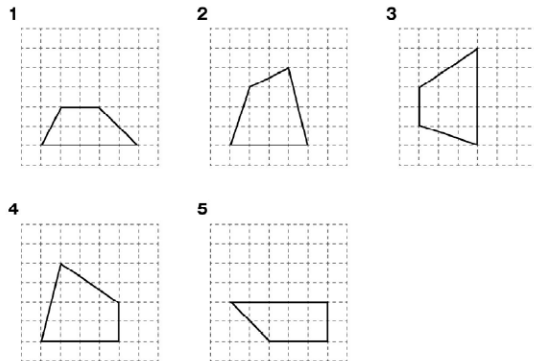
令和7年度「設問別」の結果と課題【小学校】

算数

平均正答率が東京都より高い問題

2

- (2) わかなさんは、方眼紙に下の 1 から 5 までの四角形をかきました。
下の 1 から 5 までの中で、台形はどれですか。
3つ選んで、その番号を書きましょう。



【出題の趣旨】

2 (2)

台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。

【正答率】江戸川区 58.0% 東京都 56.7% 全国 50.2%

【本区のこれからの取組】

台形の意味や性質を理解できている児童が全国・都の平均と比べて多い。誤答として、選択肢5のように置き方が変わると台形の意味や性質を見いだせない傾向がみられる。

置き方をいろいろ変えて示した図形について、図形を構成する要素や位置関係に着目しながら理由を説明したり、図形のどのように構成し直せばよいのかを考えたりする活動を通して、知識・技能の習得に取り組んでいく。

また、区独自で実施している年3回の学力定着度調査（算数）において、児童が自身のつまづきや成長を把握して改善に取り組むとともに、学校も授業改善や習熟にむけた指導に生かしてきた。学力定着度調査（算数）の結果を生かし、指導の充実及び学習の改善に取り組んでいく。

平均正答率が東京都より低く、無解答が多い問題

3 (2)



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

【出題の趣旨】

3 (2)

分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

【正答率】

江戸川区 26.7%
東京都 29.7%
全国 23.0%

【無解答率】

16.3%
16.2%
15.7%

【本区のこれからの課題】

数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、分数の加法の計算の仕方を既習の整数や小数の加法の計算の仕方に関連付けて統合的・発展的に考察することが重要である。引き続き、江戸川区算数授業スタンダードに基づいた「課題把握」「見通し、自力解決」「比較・検討、まとめ、適用問題」の問題解決的学習を通して児童の思考力・判断力・表現力を育んでいく。

令和7年度「設問別」の結果と課題【小学校】

理科

平均正答率が全国より高い問題

- 1 (1) 上の【方法】で、コップAの条件を下の通りにしたとき、コップBの条件（赤玉土の量と水の量）は、どのようにすればよいでしょうか。下の（ア）と（イ）の中にあてはまる数字を書きましょう。

	つぶの大きさ	赤玉土の量	水の量
コップAの条件	大きい	300 mL	250 mL
コップBの条件	小さい	（ア）mL	（イ）mL

【出題の趣旨】

1 (1)

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかをみる。

【正答率】江戸川区 81.3% 東京都 82.3% 全国 79.5%

【本区のこれからの取組】

変える条件を1つの要因にし、残りの要因を変えない条件として、制御した実験を発想できている児童の割合が、全国と比べて多い。

条件制御の考え方を働かせて、解決方法を見いだすことは、科学的に実験・観察によって問題解決するために身に付けなければならない資質・能力である。

本区では、授業に加えて科学教育センターや科学コンテストの取組を通して児童が「比較」「関係付け」「条件制御」「多面的に考える」といった理科の見方・考え方を働かせながら問題解決できるよう指導してきた。今後も児童に科学的な見方・考え方を養うための授業改善及び取組の充実を図っていく。

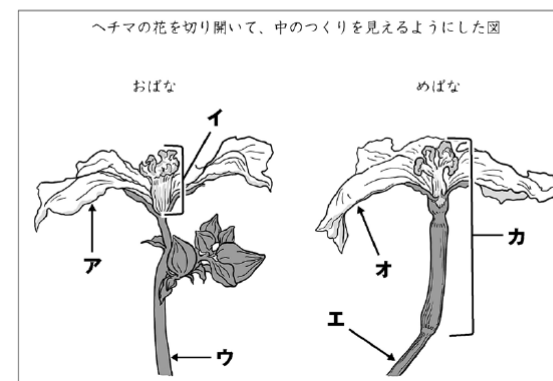
平均正答率が東京都より低い問題

- 3 たかひろさんとてるみさんは、ヘチマの花のつくりについて調べています。



ヘチマのおばなとめばなは、どんなつくりになっているのかな。

- (1) ヘチマのおしべとめしべを下の図の ア から カ の中からそれぞれ1つ選んで、その記号を書きましょう。
また、「花粉がめしべの先につく」ことを表すことばを書きましょう。



【出題の趣旨】

3 (1)

ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる。

【正答率】江戸川区 63.5% 東京都 69.7% 全国 70.7%

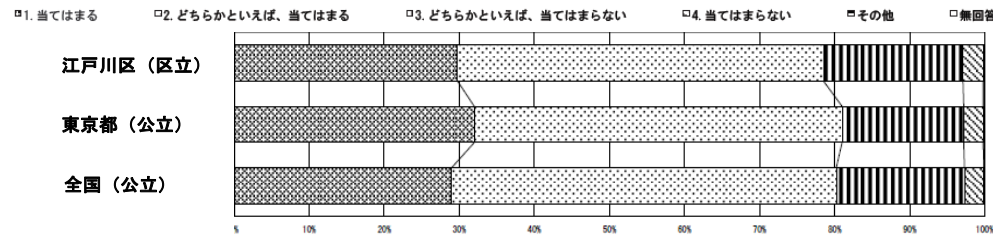
【本区のこれからの課題】

ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いている児童が全国・都と比べて少ない。知識を他の学習や生活の場面でも活用できる程度に理解することが重要である。観察や実験したことについて、図に整理したり、関連する用語をまとめたりする等、生活の場面との関連が図れるよう授業改善を図っていく。

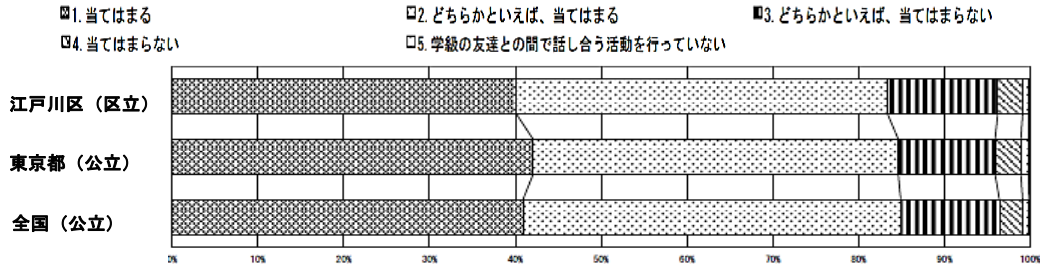
令和7年度 児童質問紙調査【小学校】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

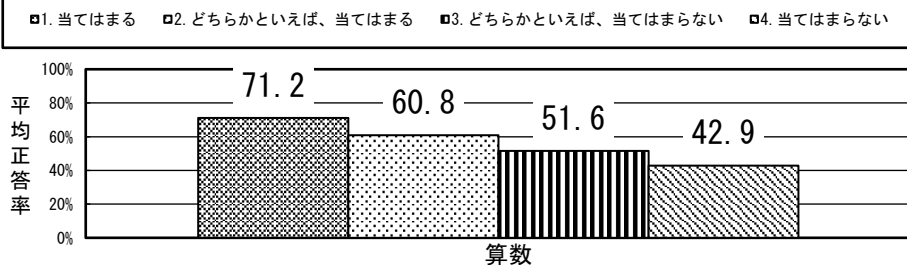
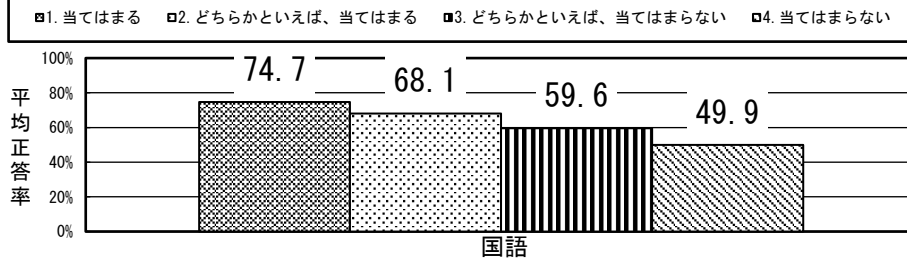
32 5年生までに受けた授業では、課題の解決にむけて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



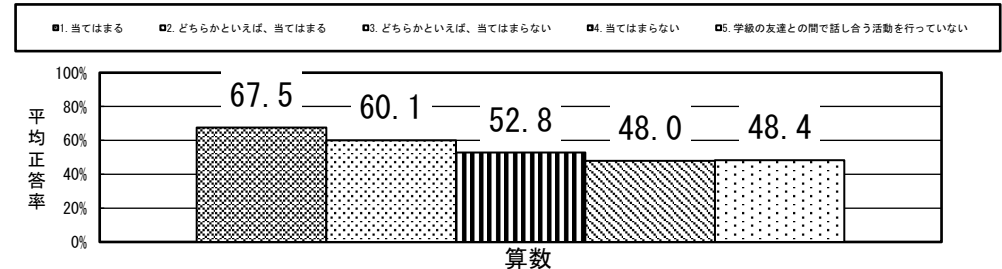
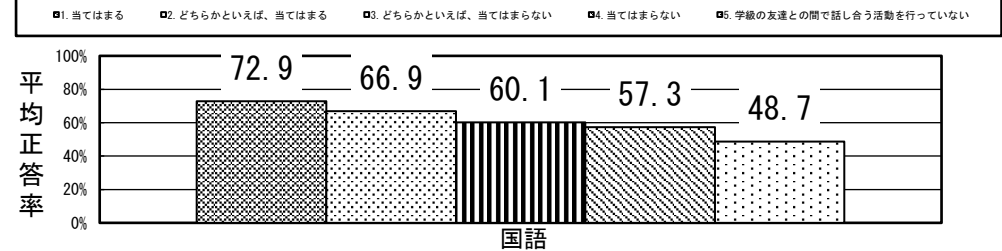
35 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



授業への主体的な取組と学力のクロス集計



授業への対話的な取組と学力のクロス集計

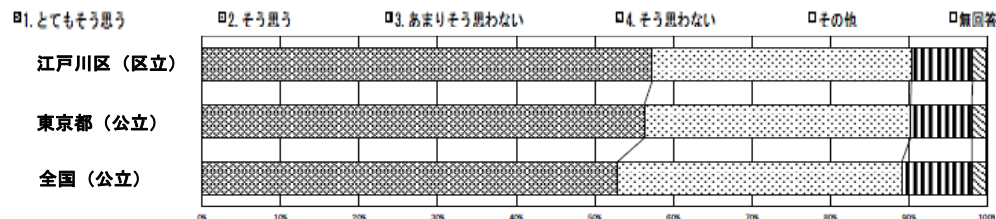


「当てはまる」と肯定的に回答した児童の割合が、都を下回っている。課題解決に向けて、「自分で考え、自分から進んで取り組んでいる」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりしている」と回答した児童の方が、そうでない児童よりも平均正答率が高い傾向にある。児童が課題に対して主体的に取り組むことができるよう、授業の導入や教材の内容、課題提示等を工夫するとともに、児童自身が自らに関する様々なデータを活用しながら把握し、自分に合った学習の進め方を考えることができるようにしていく。また、児童が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設ける等、児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が促されるように工夫していく。

令和7年度 児童質問紙調査【小学校】

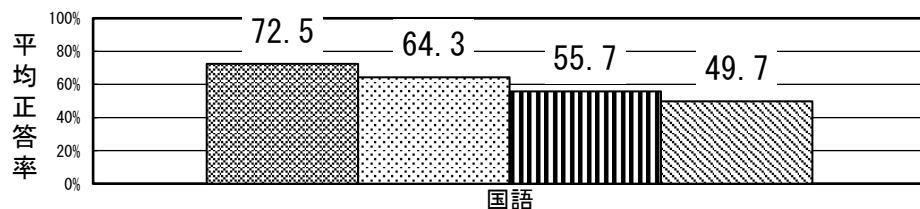
ICTを活用した学習状況

30-2 5年生までの学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる

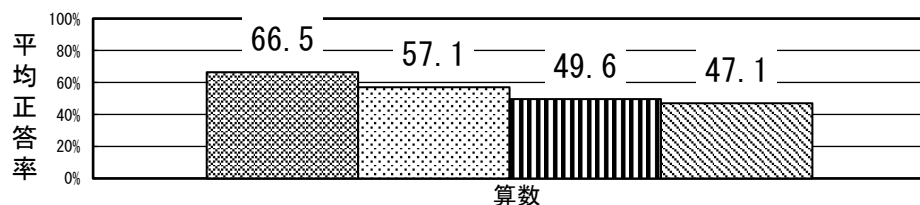


ICT活用の効力感と学力のクロス集計

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

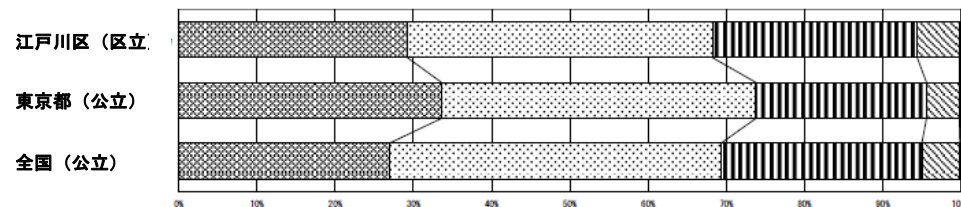


1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない



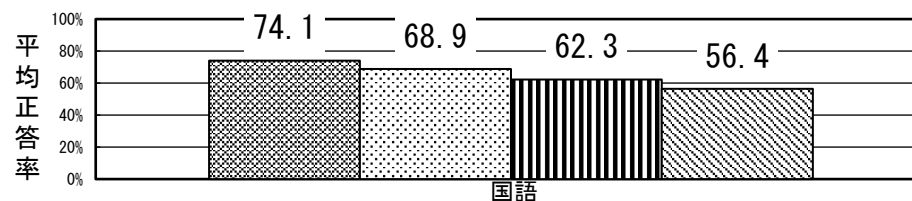
29-3 あなたは自分がP C・タブレットなどのI C T機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる) ことができると思いますか

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない その他 無回答

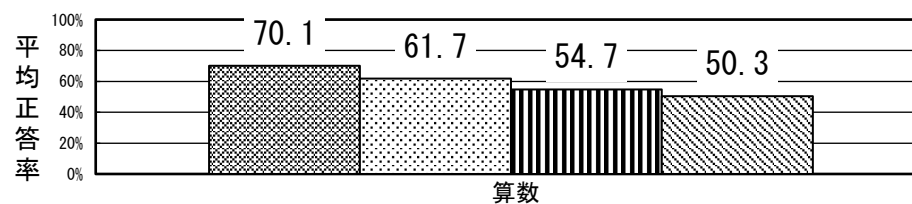


学習習慣と学力のクロス集計

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない



1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない



I C T機器を活用することについて、分からないことがあった時にすぐ調べることができるかについて、「とてもそう思う」と回答した児童の割合が、全国及び都を上回っている。また、自分がP C・タブレットなどのI C T機器を使って情報を整理することができると思うかについて「とてもそう思う」と回答した児童の割合は、都を下回った。

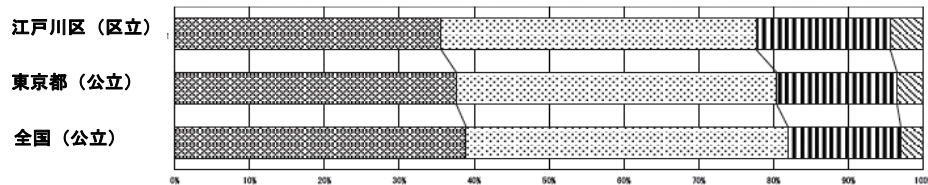
I C T機器の活用について「とてもそう思う」と回答している児童の方が、そうでない児童に比べて平均正答率が高い傾向にある。授業等でのI C Tの活用が浸透してきているが、情報整理やプレゼンテーション、友達との意見交換等、さらにI C T機器を活用できるよう「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現する授業改善を図っていく。

令和7年度 児童質問紙調査【小学校】

基本的生活習慣

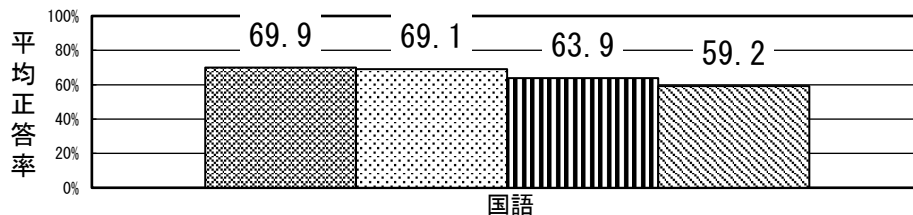
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

□1. している □2. どちらかといえば、している □3. あまりしていない □4. 全くしていない

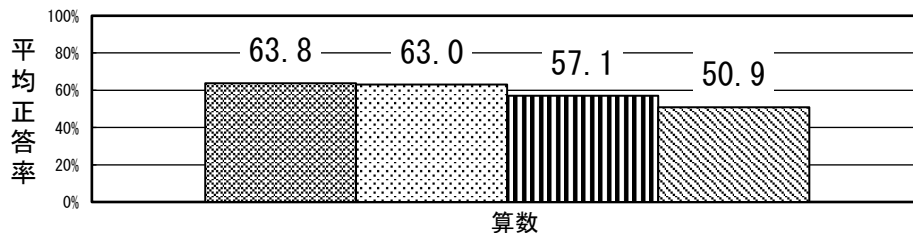


基本的生活習慣と学力のクロス集計

□1. している □2. どちらかといえば、している □3. あまりしていない □4. 全くしていない



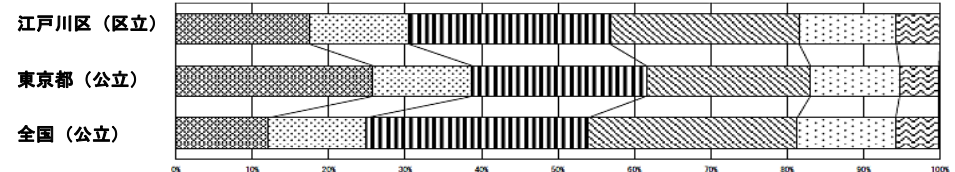
□1. している □2. どちらかといえば、している □3. あまりしていない □4. 全くしていない



学習習慣・学習環境等

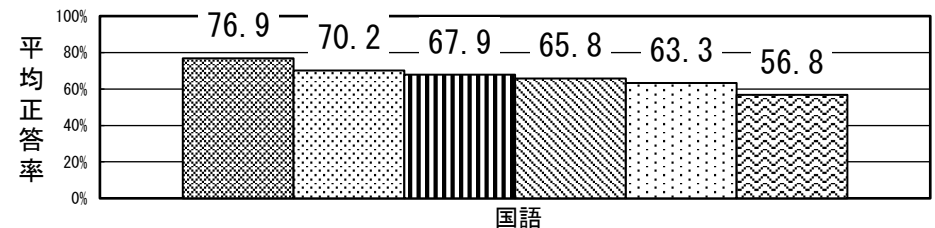
17 学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネット学習を含む）

□1. 3時間以上 □2. 2時間以上、3時間より少ない □3. 1時間以上、2時間より少ない
□4. 30分以上、1時間より少ない □5. 30分より少ない □6. 全くしない

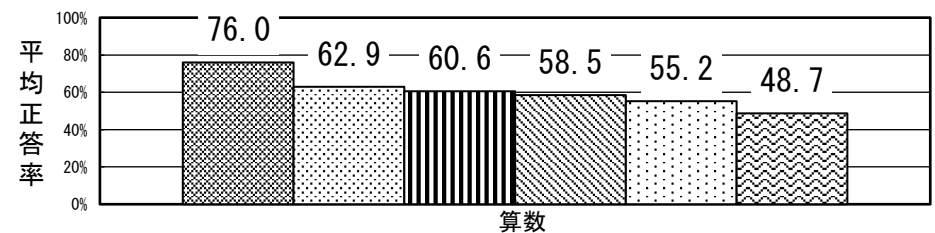


学習習慣と学力のクロス集計

□1. 3時間以上 □2. 2時間以上、3時間より少ない □3. 1時間以上、2時間より少ない
□4. 30分以上、1時間より少ない □5. 30分より少ない □6. 全くしない



□1. 3時間以上 □2. 2時間以上、3時間より少ない □3. 1時間以上、2時間より少ない
□4. 30分以上、1時間より少ない □5. 30分より少ない □6. 全くしない



「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童の割合が全国及び都を下回っている。規則正しい生活習慣を送っている児童は、平均正答率が高い傾向がみられる。生活習慣を整え、家庭学習の時間を確実に確保することで学力の向上に努めていく。また、学校の授業時間以外の勉強時間が「1時間以上」と回答した児童の割合が、全国よりも上回っており、学校の授業時間以外の勉強時間が多い児童の方が、そうでない児童よりも平均正答率が高い傾向にある。児童の学習習慣を確立し、学力を向上させるため、児童の意欲や達成感を高めるように宿題の内容について工夫したり、ICT機器を活用したりして、家庭学習の充実を図っていく。

令和7年度 学力向上に関わる主な取組【小学校】

○ 「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の策定

- ・「江戸川区立学校における学力向上に向けた取組の指針について」における論点を基に、学力向上に向けた具体的な取組を推進

○ 学力向上プロジェクト推進局の設置

- ・江戸川区立学校に在籍する小・中学生の学力向上に向けた諸事業を行うことを目的とし、学力向上プロジェクト推進局を設置
- ・推進局内に学力向上プロジェクトチームをおき、プロジェクトチームを小学校国語、小学校算数2つのチームで構成

○ プロジェクトチームの取組

- ・「江戸川区算数授業スタンダード」及び「江戸川区国語授業スタンダード」を作成
- ・「江戸川区算数授業スタンダード」及び「江戸川区国語授業スタンダード」に基づく公開授業の実施
- ・算数・国語における強化校の取組実施
- ・筑波大学附属小学校教諭による公開授業及び講演会の開催
- ・年3回、江戸川区学力定着度調査（算数）を実施し、学習カルテを作成
- ・読解力向上を目指し、新聞記事を活用したワークシート教材（年間30回）を第4学年（後期のみ）、第5学年、第6学年で実施

○ 江戸川区学力調査の実施

- ・国語、算数、学習意識調査を第3～6学年で実施

○ EDOGAWA STUDY SQUARE～誰一人取り残さない学習支援事業～

- ・令和4年度から放課後学習教室（EDOスク）事業を全校で実施

○ 東京方式 習熟度別指導ガイドラインに基づく効果的な「習熟度別指導」の推進

- ・算数の授業において、効果的な「習熟度別指導」を実施

○ ICTを活用した協働学習の推進

- ・各教科等の授業で一人1台端末を活用し、授業改善を推進

○ 学校図書館の活用

- ・学校図書館の環境整備を進め、各教科等で学校図書館を活用
- ・学校図書館への区立図書館職員の全校巡回

○ 「読書科」の充実

- ・読書を通じた探究的な学習を通して、生涯にわたって主体的に学び続けていくための資質・能力を育成（全校の各学年で年間35時間実施）

○ 電子ドリルの活用

- ・電子ドリルを活用した「江戸川っ子 study week!」の実施（各学期に1週間実施）